

科目名	第二言語習得論特殊研究	担当者	シマダ 島田 メグミ めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	第二言語習得は、日本語教育をはじめとする外国語教育に関わる研究者や教員にとって非常に重要な分野であり、本科目では第二言語習得に関する理論を基本から最新の理論まで広く学び、さらに、自分の分野に理論を応用できる能力を養うことを目的とする。		
到達目標	前期は、第二言語習得の基本的理論を理解し、習得に及ぼす影響を理解する。さらに、日本語など外国語の教科書における文法項目の導入順序と習得順序の違いなどを把握し、どのように考えるか考察する。 後期は、認知的アプローチから第二言語習得を考え、最新の理論を学ぶ。また、文法習得と教室指導の効果に関する研究やその結果を理解し、自ら実験計画を立てられるようになる。		
学修方法	<前期> 1. 基本教材1を読んで、第二言語習得の基本的理論を理解する。さらに、初級日本語の教科書で取り上げられている文法項目について、習得理論の観点から分析する。 2. 第二言語習得の理論を理解した上で、第二言語習得に関する論文を読み、習得理論の観点から分析・考察する。 <後期> 1. 基本教材2を読み、第二言語習得の理論を理解した上で、日本語の発達段階について具体例をあげて検討し、自身の考え、該当分野の展望を述べる。 2. 基本教材2の内容を参考に、第二言語教育における教室指導、教室習得に関する研究を行う場合の実験計画を立てる。		
スケジュール	<前期> ・レポート課題1 締切：6月末 ・レポート課題2 締切：9月課題提出締切日 <後期> ・レポート課題1 締切：11月末 ・レポート課題2 締切：1月課題提出締切日		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	形式（構成、引用の仕方、適切な表現）、内容（論旨の明快さ、獨創性、課題把握の適切性）
	平常評価	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	ピア・レスポンス、教師によるフィードバックをもとにレポートを完成させることが求められるので、ピア・レスポンスへの参加、余裕のある草稿送付を心がけること。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 大関浩美 教材名： 『日本語を教えるための第二言語習得論入門』（くろしお出版，2010年） ISBN:978-4-87-424480-7 1,800円+税
	本書は、日本語教育に関する事例を多く取り上げながら、第二言語習得の理論を非常にわかりやすく解説したものである。また、過去の研究例も多く紹介されており、日本語教育を教えるために必要な理論、習得に影響を及ぼす要因などを理解するのに適している。
参考図書	小柳かおる『日本語教師のための新しい言語習得概論』（スリーエーネットワーク，2004年） ISBN:978-4-88319-326-4 1,600円+税
履修上のポイント	基本教材1は第二言語習得論の入門書であるが、第二言語習得の理論は、日本語教育の研究や実践に非常に重要であるため、十分に理解すること。さらに、習得に関する論文を読み、日本語教育における習得研究の概要を理解してほしい。
レポート課題1	基本教材1の第4章から第7章を読んで、初級日本語の教科書で取り上げられている1つあるいは複数の文法項目について、本書に書かれている習得理論の観点から分析する。（3,000字～4,000字） 留意点 ：分析する観点を明示すること。なお、専門が日本語教育でない場合は、他の言語の教科書でも構わない。
レポート課題2	習得に関する論文を2～4本読み、本書で取り上げられている習得理論の観点から整理、分析し、自分の意見を述べる。（3,000字～4,000字） 留意点 ：分析する観点を明示すること。展望論文やメタ分析の論文は対象外とする。なお、専門が日本語教育でない場合は、他の言語の教科書でも構わない。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 小柳かおる・峯布由紀 教材名： 『認知的アプローチから見た第二言語習得』（くろしお出版，2016年） ISBN:978-4-87-424683-2 3,700円+税
	認知的アプローチから第二言語習得理論を扱ったもので、後半は教室習得研究に焦点をあてている。英語教育のほか、国内外における日本語教育に関する研究例が紹介されており、該当分野の最新の動向を知ることができる。
参考図書	南不二男『現代日本語文法の輪郭』（大修館書店，1993年） ISBN:978-4469220926 2,000円+税
履修上のポイント	第二言語習得研究、特に教室習得に関する研究は、日本語教育分野に関しても、国外において英語で発表されたものが多いが、本書にはこれらの研究が多く紹介されており、貴重な情報を得ることができる。関心のある文献を入手し、読んでほしい。処理可能性理論を用いた日本語文法の発達段階を理解するためには、参考図書の『現代日本語文法の輪郭』が参考になる。
レポート課題1	基本教材2の第1章から第3章を読み、日本語の発達段階について具体例をあげて検討した上で、自身の考え、該当分野の展望を述べる。（3,000字～4,000字） 留意点 ：専門が日本語教育でない場合は、他の言語を扱っても構わない。
レポート課題2	基本教材2の内容を参考に、教室指導、教室習得に関する研究を行う場合の実験計画を立てる。具体的な対象、取り上げる項目、期間、方法、検証方法、予測される結果を論じる。（3,000字～4,000字） 留意点 ：取り上げる項目について、なぜ対象とするのかその理由も述べること。なお、専門が日本語教育でない場合は、他の言語を扱っても構わない。